

筑輪町公式ホームページリニューアル業務委託 CMS機能要件一覧表

【 記入要領 】

「対応」欄に以下のとおり対応可能な可否を記入すること。
 ○：本業務の委託費用内で対応可能な場合（パッケージ標準、自社のオプション、自社のカスタマイズ等）
 △：代替案（外部委託等）により本業務の委託費用内で対応可能な場合（「備考」欄に具体的に代替案の実現方法を記入すること）
 ×：上記「○」「△」以外の場合
 ※1つの項目内の要件で、一部のみ「×」となる場合は「×」を記入すること。
 ※本業務の委託費用内で提案などがある場合は、「備考」欄に記入すること。
 CMS機能要件一覧表の適応状況については、基準点150点からの減点方式により、機能要件評価点を算出する。減点により、0点を下回る場合は、評価点を0点とする。

1 基本要件

		内 容	対応	備考
基本要件	1-1	導入するCMSは、過去5年以内に国、都道府県、市区町村等において導入実績がある製品で、かつASP方式による自治体サイトへの導入実績を3件以上有すること。		
	1-2	CMS利用にあたって、各職員のクライアント端末に特別なアプリケーションなどをインストールすることなく、ウェブブラウザから利用できること。		
	1-3	各職員のクライアント端末から、ブラウザを通して、ID、パスワード認証にてログインできること。		
	1-4	各職員のクライアント端末のブラウザは、Microsoft Edge、Google Chrome、Firefoxのいずれでも利用が可能であること。		
	1-5	端末台数やユーザー数、ページ数やテンプレート数の増加により、ライセンス料が変動しないこと。		
	1-6	ユーザー全員に個別のID、パスワードを付与できること。		
	1-7	データと表示スタイルを完全に分離し、表示スタイルはすべてスタイルシートで管理すること。		
	1-8	生成されるコンテンツデータ（ページ）については、HTML1.0 Transitional以上の規格に準拠し、WEB標準に配慮した文書構造を持つこと。また、アクセシビリティツールによる、コンテンツの音声読み上げ機能に対応していること。		
	1-9	すべてのコンテンツをHTTPS通信で表示できること。		
	1-10	UTF-8の文字コードに対応すること。		
	1-11	1つのページ内で複数の言語の記述が可能であること。		
	1-12	公開サーバに表示されるファイルは静的なHTMLであること。ただし、イベントカレンダーなどで動的に表示させることが望ましいページがある場合は、その限りではない。		
	1-13	閲覧者が画面をA4縮型で印刷する際、ブラウザOSに関わらず内容が損なわれずに印刷できること。		
	1-14	CMS内のデータは夜間バッチ等により定期的にバックアップし、システム障害発生時等には、保存してあるバックアップデータから復元できること。		
デザイン	1-15	サイト全体として、統一化されたページデザインとすること。		
	1-16	トップページなどは、サイト管理者がデザインの軽微な修正ができること。		
	1-17	大規模災害時等、トップページへ重要なお知らせを表示する機能を有すること。		
	1-18	大規模災害時等、トップページ以外のすべてのページへ重要なお知らせを表示する機能を有すること。		
カテゴリ分類	1-19	カテゴリ分類は、想定される閲覧者（例：引越し・結婚・介護など）にそれぞれの使いやすさを優先し、タイトルを見ただけでカテゴリ内のページの内容が想像できるようにすること。		
	1-20	カテゴリ分類ごとにカテゴリトップページを作成すること。		
	1-21	カテゴリトップページとは別に、課及び室ごとにトップページを作成すること。		
	1-22	所属トップページには、独自の見出しを各所属の担当者にて自由に設定できること。		
	1-23	ページ作成時に、掲載するカテゴリ分類を容易に選択できること。なお、1つの記事ページについて複数のカテゴリ分類を登録できること。		
	1-24	作成済みの記事ページを、容易に別のカテゴリ分類に移動させられること。		
	1-25	カテゴリ分類は大→中→小カテゴリといった一方通的なものだけでなく、必要に応じて、逆引きもできるような設定可能であること。（たとえば、「住宅→申請」といった流れだけでなく、「申請→住宅」といった流れも自動で表現できること）		

2 ページ作成機能		内 容	対応	備考
基本的な仕様	2-1	作成者がHTML言語を意識することなく、Word・Excelを操作する感覚で記事を作成でき、実際の掲載画面をイメージできる作成画面であること。		
	2-2	テンプレートをを使用することで、専門知識を持たない職員でも編集ができ、見出しや段落、表などがタグの知識を持たなくても容易に記事ページに反映できること。		
	2-3	フォーム入力型のテンプレートも利用できること。		
	2-4	公開側のページ（ヘッダ、フッタ含める）のイメージのまま直接編集ができる機能を有すること。		
	2-5	見出し、本文、画像、添付ファイルなど、構成要素をパーツとして追加し、ページの作成が行えるパーツ登録の機能を有すること。		
	2-6	WYSIWYGインターフェイスとフォーム入力型インターフェイスが、同一のテンプレート内で利用できること。		
	2-7	作成した記事ページの定位置に、担当課情報（課室名・電話番号・メールアドレスなど）が自動的に記載されること。また、あらかじめ登録してある複数の問い合わせ先が表示でき、任意に選択できること。		
	2-8	記事ページ作成完了時、必須項目に未入力があった場合、警告を表示しスムーズに修正できること。		
	2-9	記事ページのレイアウト、および記事内容はコピーして再利用ができること。		
	2-10	同じ記事ページを更新して再度公開を行う際に、以前公開していた記事ページを前バージョンとして管理できること。バージョンの上限数は特に指定のない限りものとし、また以前のバージョンを再利用することも可能であること。		
	2-11	ファイルの保存時には、自動的に連番のファイル名が入ること。また、必要に応じて任意のファイル名が指定できること。		
	2-12	画像、添付ファイルのファイル名が、日本語名などのサーバ上で使用できないものである場合には警告を表示し、スムーズに修正できること。		
	2-13	作成時に操作を誤った場合、その操作のひとつ前の状態に戻すことができること。		
	2-14	作成途中の記事ページを一時的に保存し、再ログイン後に編集を再開できること。		
	2-15	検索サイトに上位に記事ページを表示させる機能(SEO)対策として、検索用キーワードを容易に設定できること。		
	2-16	パソコン用の記事ページを作成した際、スマートフォンに対応したページを同時に自動生成・更新できること。		
	2-17	記事ページ作成画面内に文字列の検索・置換機能があり、容易に文字列の検索・置換ができること。		
	2-18	権限を与えられた作成者は、HTMLのソースコードを直接編集できること。		
	2-19	記事ページ編集画面から入力データの失われる可能性がある画面へ遷移する際の確認メッセージを表示ができること。		
	2-20	記事ページに対し、複数の検索用キーワードを容易に設定できること。		
	2-21	記事ページごとに固定のQRコードが自動で作成できる機能を有すること。		
他データの流 用・表の編集	2-22	Wordデータを取り込み、自動的にHTMLデータに変換できること。その際、Word上で設定された見出しスタイルやリスト情報、揃え位置などをHTMLスタイル上に反映できること。		
	2-23	Word・Excelデータをコピー＆ペーストできること。Word・Excel上で設定された見出しスタイルやリスト情報、揃え位置等をそのままページに反映できること。ただし、アプリケーション特有の不要なHTML（CSS）表現は自動的に削除できること。		
	2-24	Word・Excelデータから取り込んだ（もしくはコピー＆ペーストした）表は、再編集できること。行や列の追加・削除、見出しセルの設定、幅の指定などが、ソースコードを直接編集することなく、容易に操作できること。		
	2-25	表を新規で作成できること。行や列の追加・削除、見出しセルの設定、幅の指定などが、ソースコードを直接編集することなく、容易に操作できること。		
	2-26	表の見出しを設定した際に、ソースコードを直接編集することなく、見出しの指定範囲を設定漏れしないように防ぐ機能を有すること。		
	2-27	簡易な操作でクライアント端末やCMSサーバ上にある画像を掲載・参照し、変更できること。		
画像	2-28	CMSサーバ上に全作成者が共通で使用可能な画像の素材集を設置でき、一覧表示の中から選択して使用できること。また、その素材集は、サイト管理者によって追加、削除が可能なこと。		
	2-29	画像に説明やリンクをつけられること。		
	2-30	画像の代替テキスト（alt属性）の未入力を防ぐために警告が表示されること。		
	2-31	登録できる画像のファイル種別（JPEG、GIF、PNGなど）を制限できること。		
	2-32	公開する画像のファイル容量、または画像サイズを制限できること。		
	2-33	制限容量を超えた画像は自動でリサイズ、または警告を表示できること。		
	2-34	クライアント端末にソフトをインストールすることなく、画像のリサイズ、トリミングなどができる画像の編集機能を有すること。		
	2-35	簡単な操作で画像上の指定された位置に、文字の挿入が行えること。挿入できる文字列は、文字の変更、文字サイズの変更、文字色の変更、文字列に影付きなどの見やすくするための装飾が行えること。		
	2-36	複数画像のオンライン挿入（特定の座標位置ではなく、文字と文字の間に挿入）ができること。また、表示位置、表示サイズの指定をする機能を有すること。		
	添付ファイル	2-37	記事ページにWord・Excel・PDF等の各種文書ファイルをリンクできること。	
2-38		リンクした文書ファイルの種類（Word・Excel・PDF等）、サイズが自動で表示されること。		
2-39		リンクした文書ファイルの種類（Word・Excel・PDF等）のアイコンを自動で表示できること。		
2-40		ダウンロードファイルのリンクは、任意の場所に表示できること。		
2-41		記事ページからリンクする文書ファイルなどの種類、容量を統一して制限できること。		

リンク	2-42	内部リンク・外部リンクを容易に設定できること。			
	2-43	内部リンクは、一覧及び公開中のページ画面などからリンク先を選択するだけで容易に設定できること。			
	2-44	外部リンクを設定した場合、サイト管理者が定めた任意のルールに基づき、リンク文字列の後ろに「外部リンク」などの文言を自動挿入できること。			
	2-45	リンク先を表示する際、別ウィンドウで開く設定が可能であること。			
	2-46	公開前（未承認）の記事ページに対してリンク設定ができること。（新規に作成した記事記事ページのアドレスが公開前に確認できること。）			
	2-47	ファイルの格納場所や、ファイル名が変更された場合など、リンクに関わる変更があった場合には、自動的に該当するリンクが修正もしくは警告されること。			
	2-48	記事ページ公開開始時に、パンくずリスト、指定したカテゴリインデックス、ローカルナビゲーション、およびサイトマップにページタイトルをリンク名としたリンクが自動生成され、公開終了時にそれらが自動削除できること。			
	2-49	内部リンク・外部リンクのリンク切れを一括でチェックでき、一覧として作成者・承認者・サイト管理者が確認できること。			
	2-50	内部リンク・外部リンクのリンク切れをページ単位でチェックでき、ページ内のどの部分にリンク切れがあるか視覚化して確認できること。			
	2-51	リンク切れが発生した際にはメール等で通知する機能を有すること。			
2-52	ページを削除する際に他のページからリンクが設定されていないかチェックを行い、リンクが貼られていた場合は、警告表示と該当ページ一覧を表示できること。				
アクセシビリティ、およびチェック機能	2-53	ページ単位でアクセシビリティ上の問題を総合的にチェックできること。また、問題箇所をイメージ画像にて明示し、なぜ問題があるのか、どう修正したら良いのかを表示できること。			
	2-54	記事ページ作成時にアクセシビリティなどに関する項目のチェックを自動で行い、問題がある箇所は警告表示できること。 ・画像の代替テキストの有無 ・日付、時間などの表記 ・全角英数字、半角カナ文字使用の有無 ・機種依存文字、禁止文字使用 ・不要な全角スペース、半角スペースの使用 ・ページタイトルの有無 ・ファイル名の有無 等			
	2-55	記事ページタイトル、または、ファイル名の重複チェックが可能であること。			
	2-56	使用が好ましくない単語が含まれている場合、サイト管理者が指定する単語に自動変換する機能があること（例：「子供」→「子ども」）。変換対象とする単語は、サイト管理者が任意で登録することができ、登録可能な単語数に制限がないこと。			
	2-57	使用が好ましくない単語の自動変換機能については、記事ページ内容によってはあえて表記する場合も想定できるため、ページ作成者が変換候補とは異なる文字も使用できること。			
	2-58	画像の代替テキストとしての使用が好ましくない単語（例：「写真」、「画像」）が設定されていた場合、警告を表示できること。警告を表示する単語は、サイト管理者が任意で登録することができ、登録可能な単語数に制限がないこと。			
	2-59	リンクのタイトルテキストとしての使用が好ましくない単語（例：「こちら」、「こちらをクリック」）が設定されている場合、警告を表示できること。警告を表示する単語は、サイト管理者が任意で登録することができ、登録可能な単語数に制限がないこと。			
	2-60	表（テーブル）の構造化チェック、キャプションに指定された文字列のチェックを行えること。			
	2-61	見出しの構造化チェックが行えること（例：見出し1の有無、見出し1、見出し2などの階層構造）。			
	2-62	すべてのページに文字色・背景色変更機能を有すること。			
	2-63	すべてのページに文字色・背景色変更機能を有すること。			
	2-64	複数の音声読み上げソフトに対応できるよう、作成された記事ページのソースはアクセシビリティに配慮した順番で記述されること。			
	2-65	アクセシビリティチェック時に、記事ページ内の本文や代替テキスト表内の文字など、読み上げ順を確認できること。			
	2-66	文字色と背景色の組み合わせが、色覚に障がいのある人に適切かどうかを確認できること。			
	2-67	記事ページ一覧画面において、アクセシビリティに違反する記事ページがひと目で分かるように表示できること。			
	地図	2-68	Googleマップなどを用いて、地図情報を提供できること。また、住所や施設名などを入力することで簡単に掲載する地図の場所を指定できること。		
		2-69	同一の地図内に、複数の施設が表示できること。また、ジャンル別や地区別に表示が可能なこと。		
	動画	2-70	CMSで作成する記事ページ内に、YouTubeなどの動画配信サイトに掲載した動画を埋め込み再生できること。		
		2-71	さまざまなサイズやファイル形式で動画の登録・配信が簡単に行えること。ただし、サイズの制限設定があること。		
	外部取り込み	2-72	外部で作成されたHTMLファイルや画像ファイルなどを、リンク関係を保持したまま一括でCMSへ取り込めること。		
2-73		取り込んだファイルは、CMS内で作成するHTMLファイルと同様の操作で再編集できること。			
記事ページの公開・削除・再利用	2-74	各課室の作成者が公開開始・終了日時を入力することで、指定した日時に記事ページの自動更新ができること。			
	2-75	公開期限は、年月日のほかに時間指定ができること。			
	2-76	公開時間を指定せず、即時公開の設定が容易にできること。			
	2-77	公開期限を無期限とする設定が容易にできること。			
	2-78	すでに公開されている記事ページを未来の日付で更新する場合は、現在の記事ページを直接編集し日時設定することで、予定の日時に記事ページが自動更新されること。また、公開予定の日時がくる前までは、現在のページが維持されること。			
	2-79	記事ページに公開日、または最終更新日が自動的に表示されること。ただし、任意の日付に置き換えができること。			
	2-80	記事ページの公開・更新を行った際、記事ページが所属するカテゴリ、および所属トップ記事ページ等の内容も自動で更新（タイトルの後ろなどに更新日を自動挿入）されること。			
	2-81	記事ページを公開サーバから削除する際、記事ページが所属するカテゴリ、および所属トップ記事ページに表示された文章とリンクが自動削除されること。			
	2-82	記事ページを公開サーバから削除する際、HTMLファイルだけでなく、付属する画像ファイルやPDFファイルなども同時に公開サーバから自動削除できること。			
	2-83	記事ページを公開サーバから削除する際、対象の画像やPDFなどのファイルが、削除対象ではない記事ページからリンクされた状態にある場合、サーバ上に残ること。			
プレビュー	2-84	公開が終了した記事ページは再利用できるようにCMSサーバに保存できること。			
	2-85	CMSサーバに保存されている記事ページを一覧から選択・複製し、新規記事ページを作成できること。			
	2-86	公開が終了した記事ページの一覧を表示でき、一括、または選択してCMSサーバから削除できること。			
	2-87	記事ページの公開イメージを、作成・承認の各段階で容易にプレビューできること。また、プレビュー画面からは、容易な操作で作成画面などに戻れること。			
	2-88	当該記事ページからリンクをたどる形で、内部リンク先の記事ページも含めて公開時と同じ状態でプレビューできること。			
	2-89	任意の未来日を指定して、その時点での記事ページおよびサイト全体をプレビューできること。			
	2-90	スマートフォン版ページなど、他のデバイスの表示もプレビューできること。			

3 自動更新・自動生成機能		内 容	対応	備考
新着リンク	3-1	記事ページ作成時に、指定する新着情報エリア（トップページ、所属トップページ、カテゴリトップページ、サブサイトトップページなど）へ掲載の有無を設定でき、公開されるタイミングで自動掲載されること。		
	3-2	新着情報に掲載した情報は、掲載日の降順で自動的に表示されること。ただし、任意に並び替えができること。新着情報に表示しきれない情報がある場合は、新着情報一覧ページに別途表示できること。		
	3-3	指定する新着情報エリア（トップページ、所属トップページ、カテゴリトップページなど）に表示できる件数、表示順を、サイト管理者が任意に設定できること。		
	3-4	指定する新着情報エリア（トップページ、所属トップページ、カテゴリトップページなど）に、「NEW」「新着」などのアイコン表示、および表示期間を設定できること。		
	3-5	新着情報に表示するタイトルを、記事ページのタイトルとは異なる設定ができること。		
ナビゲーション	3-6	すべてのページにトップページへ戻るリンクを設定し、統一した所定の位置に表示すること。		
	3-7	各ページに、ページタイトルを自動的に引用したパンくずリストを自動生成できること。		
	3-8	パンくずリストは、カテゴリ別・所属別などの設定に対応できること。		
	3-9	パンくずリストは、閲覧者がサイト内を閲覧したページ順に表示ができ、表示件数は設定できること。		
	3-10	各ページにグローバルナビゲーション・ローカルナビゲーションを自動生成できること。		
	3-11	対象ページが公開された際、ナビゲーションも自動更新され、公開終了時にはそれらを自動的に削除すること。		
RSS	3-12	サイトマップを自動生成できること。また、必要に応じて編集できること。		
	3-13	サイト全体あるいはカテゴリごとの新着情報を、RSSフォーマットで出力できること。		
	3-14	指定するページに、外部サイトからRSSで配信される情報を表示できること。		
イベントカレンダー	3-15	各イベント情報の記事ページにリンクが設定されたイベントカレンダーが自動生成でき、各所属が入力したイベント情報を月ごとに集約表示できること。		
	3-16	記事ページ作成時に、イベントカレンダーへの掲載の有無を容易に設定でき、公開されるタイミングで自動掲載されること。		
	3-17	定期的なイベント開催などの場合、一度の記事ページ作成で複数表示できること。表示は、日、週、月、年などで設定できること。		
	3-18	カレンダーに掲載されている内容を、閲覧者がカテゴリ、開催日順、イベント名順、の並び替えに対応していること。		
	3-19	カレンダーに掲載されている内容を、キーワード、カテゴリ、対象者、開催地域、事前申し込みの有無、費用、曜日、日付で検索できること。		
レコメンド	3-20	「このページを見た人はこんなページも見ています」といった、おすすめページを自動的に表示できること。		
	3-21	上記とは別に、記事ページにサイト管理者がおすすめする記事ページを自動的に表示する機能を有すること。		
4 マルチデバイス対応		内 容	対応	備考
スマートフォン版サイト	4-1	スマートフォンで閲覧する際、最適化されたレイアウトで表示されること。		
	4-2	スマートフォンの利用シーンを想定した、専用のトップページを作成すること。		
	4-3	パソコンページを作成した際、同時にスマートフォン端末に対応したページも自動作成できること。		
5 サイト管理者の管理機能		内 容	対応	備考
基本機能	5-1	複数ユーザーが同時にログインできること。		
	5-2	各担当者や所属部署により、コンテンツのグループごとに編集権限を設けることができること。		
	5-3	ログインするユーザーIDにより、それぞれの権限に応じた画面が表示されること。		
	5-4	ログイン前または、ログイン後の画面に、CMS利用上の注意などを促すメッセージを掲載できること。		
	5-5	CMS編集画面上に操作マニュアルを表示できること。		
	5-6	作成した記事ページを所属部署ごとに集約して表示できること。		
サイト管理者の権限	5-7	同一ページを同時に別々のユーザーが更新できないこと。あるいは、更新しようとする際に警告が表示されること。		
	5-8	サイト管理者は、サイト内のすべてのページを編集する権限があること。		
	5-9	サイト管理者は、すべてのページを承認ルートによらずに即時公開できる権限があること。また、指定したユーザーに即時公開（災害発生時の公開など）の権限を与えられること。		
	5-10	サイト管理者は、CMSに登録されている全ページの情報（ページタイトル、階層構造、ディレクトリ）をCSVなどに出力できること。		
	5-11	サイト管理者は、カテゴリの追加・変更・削除、記事ページの振り分けができること。		
	5-12	サイト管理者は、すべての記事ページの状態（作成中・承認待ち・公開中・非公開など）を一覧で確認でき、CSVなどに出力できること。		
	5-13	ヘッダー・フッターなどのサイトの共通部分は、サイト管理者のみが変更できること。		
	5-14	サイト管理者は、入力禁止文字の登録・変更・削除ができること。		
	5-15	サイト管理者は、入力禁止文字が使用されているページを検索できること。また、検索後に置換できること。		

ユーザー管理	5-16	サイト管理者は、ユーザーの登録・更新・削除を行えること。また、ユーザーの操作権限・ID・パスワードなどの管理ができること。		
	5-17	サイト管理者は、登録済みのユーザー情報をCSVなどに出力できること。また、事前にExcelなどのデータで作成したCSVなどを利用してユーザー情報をCMSに取り込むこと。		
	5-18	サイト管理者は、人事異動に伴うユーザーの所属変更を、事前にExcelなどのデータで作成したCSVなどを利用して簡単に行えること。また、年度末などの指定された日付で変更を適用できること。		
	5-19	サイト管理者は、ユーザーの操作履歴（ページの公開・削除、操作日時・操作者・操作ページ・操作内容など）を確認でき、CSVなどに出力できること。		
組織管理	5-20	サイト管理者は、組織情報（部署・施設名、問い合わせ先情報など）の管理ができること。		
	5-21	サイト管理者は、登録済みの組織情報をCSVなどに出力できること。また、事前にExcelなどのデータで作成したCSVなどを利用して組織情報をCMSに取り込むことができ、組織改正などに簡単に対応できること。		
	5-22	サイト管理者は、所属の統廃合・追加・問い合わせ先変更など、組織改正による情報更新を事前に予約でき、年度末などの指定された日付で変更を適用できること。		
テンプレート管理	5-23	サイト管理者は、組織改正時に記事ページの移動（所属カテゴリの変更）などが簡単に行えること。		
	5-24	管理可能なテンプレート数に上限がないこと。		
	5-25	テンプレートは、サイト管理者レベルで、修正、追加、削除ができること。		
災害管理	5-26	テンプレートの修正があった場合、該当テンプレートを使用しているすべてのページを自動更新できること。		
	5-27	災害や断水などの緊急時、トップページの目立つ位置に緊急情報を掲載できること。		
	5-28	大規模災害などの緊急時向けの災害時用トップページを作成すること。		
バナー広告	5-29	サイト管理者は、簡易な操作で災害時用トップページに切り替えられること。		
	5-30	スマートフォン版のトップページも切り替えられること。		
	5-31	大規模災害などにより庁舎内から更新できなくなった場合でも、職員が庁舎外のインターネット環境から更新を行うことができること。		
	5-32	トップページ・カテゴリトップページなど、任意のページの指定する位置に、複数のバナー広告を表示できること。		
	5-33	サブサイトに複数のバナー広告を表示できること。		
	5-34	サイト管理者のみがバナー広告を管理・掲載・削除でき、特別な知識がなくても容易に操作できること。		
	5-35	掲載期間を設定することで、あらかじめ登録しておいたバナー広告を自動的に掲載開始・終了できること。		
	5-36	バナー広告の表示数は、容易に変更できること。		
	5-37	画像データは、JPEG・GIF・PNG・BMPが使用できること。		
	5-38	画像バナーに限らず、テキストバナーも容易に掲載できること。		
カウントダウン	5-39	バナー広告の空きスペースには、「募集中」などの代替画像を表示できること。		
	5-40	設置されたバナー広告がどれだけクリックされているかを集計する機能があり、集計された結果をCSVなどに出力できること。		
	5-41	イベントなどの開催日まであと何日といった表示ができること。		
	5-42	イベントなどの開催日まであと何日といった表示は、トップページに表示でき、それぞれ内容説明、および記事ページへのリンク設定などを、容易に操作できること。		
代理承認	5-43	イベントなどの開催日まであと何日といった表示は、記事ページに表示でき、それぞれ内容説明、および記事ページへのリンク設定などを、容易に操作できること。		
	6	承認ワークフロー		
基本仕様	内 容		対応	備考
	6-1	作成者から承認者への複数段階の承認ルートがあること。		
	6-2	管理の対象ごとに異なった承認ルートを設定することができること。		
	6-3	承認を依頼されたページを一通りで確認できる画面において、各ページの承認段階（3段階中2段階まで承認済みなど）が表示されること。		
	6-4	サイト管理者は、承認ルートの変更や追加を容易な操作で行えること。		
	6-5	サイト管理者は、すべての記事ページの承認状況を確認できること。		
	6-6	承認者は、承認依頼を受けた記事ページに対し、アクセスIBILITYチェックやプレビュー確認を行えること。		
	6-7	承認者は、再承認依頼を受けた記事ページの変更された箇所を視覚的に確認できること。		
	6-8	承認依頼時や差し戻し時に、メールによる連絡が送信されること。		
	6-9	作成者・承認者は、所属の記事ページの承認状況を確認できること。		
	6-10	承認者は、承認依頼を受けた記事ページを差し戻す際、作成者向けにコメントを追記できること。		
	6-11	承認者が不在の時、代理承認などの手段によって記事ページが公開できること。		
承認依頼中の修正	6-12	承認依頼中の記事ページを作成者自身がキャンセルし、記事ページ内容を再編集できること。		
	6-13	承認者は、承認依頼を受けた記事ページを上書き編集できること。		

7 その他の機能		内 容	対応	備考
多言語対応	7-1	複数言語に対する自動翻訳システムを導入すること。		
	7-2	複数言語のテキストデータをCMSに取り込んで、正常に表示できること。		
アクセス解析	7-3	ページごとのアクセス件数、検索キーワードなどが取得できること。		
	7-4	閲覧者の使用するブラウザ・OS等の端末情報が集計できること。		
	7-5	閲覧者の接続ポイント（都道府県）が集計できること。		
	7-6	解析結果は、CSVファイルなどで保存・出力できること。		
	7-7	市内LANからのアクセスと外部からのアクセスを区別して集計できること。		
	7-8	キーワードでサイト内のページが検索できるよう、検索の入力フォームを全ページに配置すること。		
	7-9	キーワード完全一致の検索だけでなく、表記の違いがあっても検索結果が表示される同義語検索機能が備わっていること。		
サイト内検索	7-10	検索結果のページは、サイト内の他のページと同様、同じ体裁のヘッダー、フッターを表示させ、閲覧者には、別のサイトに移動してしまったという印象を与えないようにすること。		
	7-11	サイト内と別サーバで稼働している本町関連ページ（例：観光協会：みのわテラス 等）内の検索ができること。		
	7-12	すべての記事ページに、その記事ページに関するSSLに対応した問い合わせフォームを自動で挿入でき、閲覧者が意見・問い合わせなどを簡単に送信できること。		
FAQ機能	7-13	投稿者が送信前に入力内容を容易に確認できること。		
	7-14	投稿者からの問い合わせに対し、受付確認等のメールで自動返信できること。		
	7-15	テンプレートをを用いて、カテゴリ別表示が可能なFAQページ（よくある質問ページ）を容易に作成・更新・削除できること。		
	7-16	FAQページ（よくある質問ページ）には、関連ページへのリンクや問い合わせ先を容易に設定できること。		
ウェブブック 他システム連携	7-17	関連ページや問い合わせ先が変更・移動・削除された場合は、自動で修正できること。		
	7-18	カテゴリによる検索が可能であること。		
	7-19	ウェブブックが作成できること。また作成する上限がなく、追加費用が発生しないこと。		
	7-20	本町が運用するみのわメイトが配信された際、そのメール本文の内容を自動的にトップページの指定箇所に掲載する機能を有すること。		
	7-21	J-ALERT（全国瞬時警報システム）から本町に係る情報が発信された際、その内容を自動的にトップページの指定箇所に掲載する機能を有すること。		
	7-22	Lアラート（災害情報共有システム）から本町に係る情報を発信した際、その内容を自動的にトップページの指定箇所に掲載する機能を有すること。		
	7-23	ホームページに掲載した内容をSNS（Facebook・LINE等）へ自動連携する機能を有すること。		